第３　問題作成部会の見解

地　　理　　Ａ

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　本問は，学習指導要領「地理Ａ」の「⑴現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「ア　地球儀や地図からとらえる現代世界」，「⑵生活圏の諸課題の地理的考察」の「ア　日常生活と結び付いた地図」，「イ　自然環境と防災」に準拠し，地図や資料等から諸地域の自然環境や自然災害について，人間と環境との相互依存関係に着目して考察させることを意図している。問１は，メルカトル図法の理解と活用，問２は，写真と地形図からの地形や景観の読み取り，問３は，日本における気候分布を判断する力，問４は，高潮を題材とした地形条件と自然災害，問５は，ハザードマップや避難場所を題材とした防災，問６は，自然災害と人間生活の関係について問うている。学習成果を活用して考察できるように，地理的な情報を総合的に検討しながら解答するような設問としている。正答率は問４で高く，問２で低かったが，第１問全体の平均得点率としては「地理Ａ」全体の得点率とほぼ同じであった。

第２問　本問は，学習指導要領の「地理Ａ」の「⑴現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「イ　世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。資料をもとに，前半は，世界の自然環境と人間の生活・文化との関係を考えさせる問，後半は，世界の文化や現代的な生活に関する問とした。問１は，人々の生活を支える水資源について，分布と利用の地域差を考察させた。問２は，居住環境や主食を中心とした生活様式と気候との関係を，問３は，移動手段について，各地域の自然環境や人文環境を踏まえて考察させた。問４は，言語の多様性と国際的な結びつきを，旅客流動に基づいて考察させた。問５は，身近な食料の生産や消費を，生産の地域的特徴や国際的な関係などを基に問うた。問６は，生活を支える製造業について，各国の資源分布や経済発展の状況を踏まえて特徴を考察させた。一部に正答率が低い問題があったが，概ね標準的な正答率で，識別力も十分に有していた。

第３問　本問は，学習指導要領「地理Ａ」の「⑴現代世界の特色と諸問題の地理的考察」における「イ　世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。具体的には，「アングロアメリカの生活・文化」をテーマに，北アメリカの自然環境，人間活動および社会状況を取り上げ，主題図や統計図表などの資料から，多面的・多角的に地域的特色を見出す力を問うている。あわせて，地域の社会・経済的特徴と変動に着目して，その共通性や差異性，要因を考察させる力を測ることを目的とした。問１は，北アメリカを形作る自然環境，問２は，気候と農業的土地利用，問３は，アメリカ合衆国の地域区分と人口構成の空間的特徴，問４は，都市とエスニック景観，アメリカ合衆国の都市の特徴と課題，問６は，カナダの多文化主義について問うた。大

問全体の平均得点率は標準的で，各小問の正答率をみると，問６で高く，一方で問１は顕著に低かった。その他の問題については，おおむね標準的なものであった。識別力については問１で低く，問２～５で高かった。

第４問　学習指導要領「地理Ａ」の「⑴現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「ウ　地球的課題の地理的考察」を中心とした大問である。具体的には，環境問題を中心に地域の結びつき，資源・エネルギー問題，食料問題，都市問題との関係について，図表やデータの読み取りから，地球的課題を多面的・多角的に考察する力を問うている。大問の内容としては，環境問題に対する国家グループの立場の違い，経済格差を背景とした廃棄物の国家間の経済取引，越境する環境汚染問題，新エネルギー導入に伴う生態系・食料問題，都市居住における日常的な自動車利用と密接につながる環境負荷，それらに対応する具体的な取組み例についての6つの小問で構成している。単純な知識を問うのではなく，統計や主題図をはじめとしたデータの読み取りと分析から，地理的事象や課題さらにその解決策について考察させる内容を小問中に含めている。大問全体の平均得点率は標準的で，各小問の正答率をみると，問３で高く，問５でやや高いという結果となった。一方で，問２は低かった。

第５問　学習指導要領「⑵生活圏の諸課題の地理的考察」の「ウ　生活圏の地理的な諸課題と地域調査」に関する大問である。利根川下流域を対象に，調査前後の探究学習や現地での調査活動を想定し，統計類や主題図を用いて大学入試共通テストで問いたい地理的な思考力・判断力・表現力等を多面的に問うた。問１は，利根川流域全体の特徴を把握する設定で，地図の読み取りに関する地理的技能を問うた。問２は，地形と土地利用の関わりについて，データの図から検討させた。問３は，利根川下流域の都市の発展と交通手段の変遷について，資料から考察する力を問うた。問４は，水害への対策について，資料や地図から考察する問題とした。問５は，水産資源を題材に，調達先の変遷や，資源の回復への取組みについて考察させた。問２～５を受けて，問６は，新たな探究課題を解決するための調査方法を判断する力を問うた。正答率は概ね標準的であったが，問２や問６では正答率が高かった。また，地域的な有利・不利の差は生じていない。

３　出題に対する反響・意見についての見解

第１問　本問は，地図やGISと自然災害や防災に関する知識を基に，諸地域の自然環境や自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されているとの評価を受けた。問１は，メルカトル図法の基礎について考察する良問であると評価を受けた。問２は，写真が判読しづらいとの指摘があったが，正確な読図技能を要とする出題となっていると評価された。問３は，各観測地点における気候の特徴について，日本の地域性に関する知識を基に考察する良問と評価された。問４は，災害と地形条件の関係について，地形条件と高潮の被害の関連が明瞭に読み取れる良問と評価を受けた。問５は，判読しやすい表現方法への工夫が必要との指摘があったが，河川流域の地形から，避難経路の特徴について考察する良問であるとされた。問６は，自然環境と人々の生活との相互作用について，自然災害の観点から考察する問題であるとされた。全体としては，図の表現に関する指摘もあったが，出題形態や難易度のバランスはとれていたと考える。

第２問　全体として提示された資料を読み解き，基礎的な知識をベースに思考力・判断力が求められる問題形式で，良問との評価を得た。小問別では，問１や問２は，提示された情報と背景知識とを結びつけて十分に解答可能との評価であった。問３も難易度は標準的とされたが，設問の形式が受験生に優しくないとの意見もあった。問４は，言語や文字と，都市間の結びつき

を組み合わせた，生活・文化らしい良問と評価される反面，両図を正確に結びつけるのは難しいとの意見もあった。問５は，輸出量と輸入量と，鮮魚・冷蔵品と冷凍品の割合を示した小問で，工夫された問い方であるとの評価を得た。問６は，製造業の成立条件の知識があれば回答は容易との評価であった。なお，問５と問６は，「地理Ｂ」の資源と産業に相応しいとの見解もあった。生活・文化には産業も含まれるため，大問構成は妥当と考えるが，衣食住や言語宗教などを扱うことも期待された。世界の生活・文化を大問全体の内容構成や，思考力を問える出題の仕方を今後も検討していきたい。

第３問　北アメリカの地誌について，多様な資料を読み取り，自然環境や人々の多様性に関する知識や理解を基に，地理的な見方や考え方を働かせて考察する問題としての評価を受けた。問１は，北アメリカの自然環境に関する景観写真を比較しながら考える問題であるとの評価を受けた。問２は，北アメリカの地誌における標準的な問題との評価を受けた。問３は，エスニック集団の分布に関する知識を基に，地理的近接性や歴史的つながりに関する見方や考え方を用いて考察する点が評価された。問４は，都市景観の写真から生活・文化の様子を推察する点が評価された。問５は，地域の特徴を比較して読み取った上で，都市でみられる諸問題を捉えさせる思考の過程は，地理教育の理念にも合致する問題との評価を受けた。問６は，多文化主義の本質を問う問題との評価を受けた。全体を通じて，教科書の基本的知識をベースとしながら，地理的な見方や考え方を働かせて考察する問題で構成されているとの評価を受けた。

第４問　問題全般に馴染みのない資料が多いものの，それらを読み取り，考察することが問われた良問が多いとの評価を受けた。問１は，環境問題で取り上げられる国や地域としてＡ～Ｄは適切であるとの評価を受けた。問２は，プラスチックごみの国際的な取引について，近年の政策を示した資料を読み取り各国の輸出量とその変化について考察する良問であるとの評価を受けた。問３は，有害物質の流出事故の時間的・空間的広がりとその影響について考察する良問との評価を受けた。問４は，バイオ燃料導入について導入国の現状と課題を考察する良問との評価を受けた。問５は，資料を基に，自動車の普及や郊外化に関する見方や考え方を働かせて検討し考察する良問との評価を受けた。問６は，第４問全体を総括し，さらに深い学びへ向かう姿勢が示されており，工夫が見られるとの評価を受けた。今後は，様々な資料を相互に読み取らせる問題を基本としつつ，設問を簡潔にするなど受験者の負担軽減も心がけたい。

第５問　地形図や各種資料を中心に，事前調査と現地調査で情報を入手して考察し，事後学習を行う展開は，実際の教育現場に近く工夫されていると評価された。一方，全体的に平易で，複数の小問で受験生への負担が大きかった点も指摘された。小問別では，問１は，読図の地理的技能を問う基本的な問題で，良問と評価された。問２は，自然地理・人文地理の両方にまたがって考察させる問題であり，良問と評価された。問３は，都市の発展や交通手段の変化について，資料の読み取りから考察させる問題と評価されたが，受験生への負担の大きさへの指摘もあった。問４は，水害対策についての思考力を問う点が評価された。問５は，素材の取り上げ方への工夫が評価された。問６は，小問を総括する形式について好意的に評価されたが，問い方にさらなる工夫も求められた。地域調査問題は，「地理Ａ」・「地理Ｂ」の共通問題であるため，「地理Ａ」の受験生でも解答できる適切な文章量や難易度に配慮しつつ，実際の教育現場を想定した問題を今後も検討していきたい。

４　今後の問題作成に当たっての留意点

⑴　「地理Ａ」の学習内容に概ね合致しており，高等学校での学習を通して身に付けた地理的技能や見方・考え方を用いて考察するものが多いと評価された。いわゆる「場面設定」の問題では，

生徒が自ら問いを立てて探究的に考察することが目指され，実際の学習過程に沿った場面設定がなされていると評価された。また，現代世界の時事的なテーマを扱いつつも，地理で学んだ成果や与えられた条件下での活用する力を問う問題も目立って増えている点についても言及がなされた。「地理総合」が開始された高等学校への影響に鑑み，教科書の内容を踏まえた学習到達度の水準の明確化を図るとともに，知識の定着や地理的技能の活用，更に地理的な見方・考え方の応用といった各側面を総合的かつ適切に問えるよう，今後の問題作成でも継続して留意する必要がある。

⑵　難易度については，平均点は55.19点で，昨年度と比較して3.57点上昇し，「世界史Ａ」や「日本史Ａ」と比較すると高かった。共通テストになってからの「地理Ａ」では中間の値であった。資料や写真類は概ね適切に使用されていたとされたが，一部で分かりにくさや誤解を生じる可能性のあるものが使用されているとの指摘を受けた。文章読解と図表読解のバランスや，適切な読解が可能な図表や写真の作成については引き続き慎重に検討し，今後の問題作成の際にも適正な難易度について十分留意したい。

⑶　地図・主題図や資料の活用については，全体的としては適切であると評価された。一方で，世界全体を示す主題図やインデックスマップが少ないことや，文章のみからなる問題が少なく解答に時間を要しているとの指摘も受けた。地図・主題図・図・写真を活用した出題や，それらと図表を組み合わせた出題については，読み取りのしやすさや適正な解答時間への配慮も含め，今後も重要な課題として検討したい。

⑷　全体として，高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは指導要領の趣旨に沿った問題作成であるとの評価を受けた。また，「地理総合」が高等学校で開始され，「地理Ａ」の学習の重要性は増している。今後は，「地理総合」への接続も意識しつつ，作業的，体験的な学習を通じて地理的な技能や思考力・判断力を養うことを重視する「地理Ａ」の内容に即した問題作成を継続していきたい。

地　理　Ｂ

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　学習指導要領「地理Ｂ」の「⑵現代世界の系統地理的考察」における「ア　自然環境」に関する大問である。世界の自然環境と関連する地球環境問題や自然災害を取り上げ，グラフなどの資料から，自然環境の特色に基づいて空間軸と時間軸を踏まえ多面的・多角的に考察する力をみることを目的とした。問１は，身近な気象や学習した気候現象について，それぞれの空間・時間スケールを思考できるか問うた。問２は，アメリカ大陸低緯度の海洋環境と地形・生態に関する問であった。問３は，世界の気候の違いを気温変化の図と知識に基づいて思考できるか問うた。問４は，自然災害の発生地域の共通点と相違点を想像する力を問うた。問５は，地震の震源分布をプレート境界などの大地形や活断層の分布との関連から思考できるか問うた。問６は，河川に関連する自然災害について都市化前後の変化とその原因を問うた。全体の平均得点率は「地理Ｂ」全体の平均とほぼ同じであった。

第２問　本問は，学習指導要領「地理Ｂ」の「⑵現代世界の系統地理的考察」における「イ　資源，産業」に関する大問である。農業や製造業，水資源や森林資源について，主題図などから自然条件や経済・社会的条件を考慮し，多角的に思考させる問で構成されている。問１は，絵図から農業的土地利用を判別し，特徴を考える問とした。問２は，水資源と穀物生産に関し，各地域の自然・経済的条件から，灌漑設備の普及や農業への投資を思考し，地域を判別する力を問うた。問３は，主題図から遺伝子組換え作物の現状と課題の特徴や課題を思考する力を問うた。問４は，世界の肉類生産と輸出との関係について，各肉の生産・消費地域の関係を，貿易や消費に関わる背景から考察する力を問うた。問５は，国の位置と貨物輸送手段の特徴について，知識を組み合わせて考える力を問うた。問６は，古紙消費量とパルプ消費量を取り上げ，紙産業と森林資源，リサイクルについて知識を組み合わせて考える力を問うた。大問全体の得点率は標準的であったが，問２の正答率が相対的に低かった。

第３問　本問は，学習指導要領「地理Ｂ」の「⑵現代世界の系統地理的考察」のうち，「ウ　人口，都市・村落」および「エ　生活文化，民族・宗教」に関する大問である。探究プロセス型として，日本の人口分布の偏りをテーマに取り上げ，その実態と派生する問題，および将来起こりうる課題と解決策を展開した。問１は，九州地方と四国地方から三大都市圏への人口移動の変化を，東京一極集中や交通手段の発達などから考えさせる問とした。問２は，東京都区部の都市化を示す指標の図を読み取り，バブル経済や再開発・ジェントリフィケーション，産業の空洞化などの知識を基に考えさせる問とした。問３は，地方都市の内部構造に関する地図を読み取り，中心市街地と郊外の土地利用に関する知識を基に周辺景観の変化を考えさせる問いとした。問４は，過疎に関する３つの指標を都道府県別に示した階級区分図を読み取り，課題の原

因や解決する方策を考えさせる問とした。問５は，少子高齢化に伴う労働力不足を考える資料を読み取り，従属人口指数の指す意味を理解して各国の人口構成の将来を考えさせる問いとした。問６は，外国からの労働力の受け入れを主題とし，近接性や旧宗主国との関係性，EU加盟などの知識を基に考えさせる問とした。大問全体の得点率は概ね標準的であった。

第４問　本問は，学習指導要領「地理Ｂ」の「⑶現代世界の地誌的考察」における「イ　現代世界の諸地域」に関する大問である。インドと中国の２か国を対象として一体的に捉えつつ，その共通点や相違点を，経済的事象を中心として地誌的・多面的に考察できる能力を問うた。具体的には，自然環境（問１），農業（問２），経済発展と人口問題（問３），産業構成（問４），ヒト・モノによる国家間のつながり（問５），環境問題（問６）にかかわる共通点や相違点，という構成とした。また，大項目「⑴様々な地図と地理的技能」で学習した成果を活用して上記のテーマを考察できるよう，図表やグラフなどを用いて情報を提示しつつ，様々な形式のデータの読取りと分析から地域的特色を考察させる作業を小問の中に含めた。大問全体の平均点は他の大問に比べると若干高く，小問によるばらつきがあったが，概ね標準的であったと考える。

第５問　本問は，学習指導要領「地理Ｂ」の「⑴様々な地図と地理的技能」の，主として「イ 地図の活用と地域調査」に関わる大問である。利根川下流域を対象に，調査前後の探究学習や現地での調査活動を想定し，統計類や主題図を用いて共通テストで問いたい地理的な思考力・判断力・表現力等を多面的に問うた。問１は，利根川流域全体の特徴を把握する設定で，地図の読み取りに関する地理的技能を問うた。問２は，地形と土地利用の関わりについて，データの図から検討させた。問３は，利根川下流域の都市の発展と交通手段の変遷について，資料から考察する力を問うた。問４は，水害への対策について，資料や地図から考察する問題とした。問５は，水産資源を題材に，調達先の変遷や，資源の回復への取組みについて考察させた。問２～５を受けて，問６は，新たな探究課題を解決するための調査方法を判断する力を問うた。正答率は概ね標準的であったが，問２や問６では正答率が高かった。また，地域的な有利・不利の差は生じていない。

３　出題に対する反響・意見についての見解

第１問　資料や文章量ともに適切であり新表現の図への高評価の一方，従来型の表現法の問の必要性も指摘された。問１は，良問との評価の一方，新しい問い方やスケールの捉え方への疑問も指摘された。問２は，問い方は新しいが共通テストらしい良問との評価を受けた。問３は，新傾向の図だが代表的な都市を扱っており思考により判断できる良問との評価を受けた。問４は，易問だが，２つの解答番号で解答する新形式のため受験生に優しくないとの指摘を受けた。問５は，共通テストらしい良問だが，判別がやや難しく時間を要するとの指摘を受けた。問６は，難易度は標準的で新科目「地理総合」で求められる「防災」を意識した良問との評価を受けた。全体では基本的な知識を新たな出題形式で問い考察を促す工夫をした点が評価され，出題意図もおおむね的確に伝わっていたと思われる。地理において地形や気候を学習する意味に基づいた問への要望が出されており，今後の検討課題としたい。

第２問　資源と産業の各分野から幅広く出題され，地理的事象を理解するための多様な図表や統計資料を用いて，知識を活用し多面的・多角的に考察する適切な内容で，難易度は標準との評価を受けた。問１は，模式図から土地利用を読み取る問題で，適切な難易度との評価を得た。問２は，資料から各地域の農業の特徴を考えさせる問いであり，適切な難易度と評価されたが，考察の視点を適切に示す工夫が必要との意見もあった。問３は，世界の農業の経営規模や生産性，食の安全性に関する知識をもとに，現代農業の新技術と課題について考察する問題で，図

がわかりやすく表現されていると評価された。問４は，畜産物の輸出割合から食肉の組合せを考察する問題で，資料や設問数は適切との評価を得た。問５は，定番の形式だが，地理的位置や特徴を把握して考察する必要があり，やや難易度が高いと評価された。問６は，グラフを読み取り，人口規模や原料の有無に関する知識をもとに諸要素を考察する良問と評価された。引き続き知識・技能を前提としつつ，思考力・判断力を問える作問を検討したい。

第３問　出題分野が「ウ　人口，都市・村落」に絞られていたが，日本の人口や都市に関する諸問題について探究する場面設定であり，全体を通して過疎化の進行や労働力不足などについて生徒が主体的に探究するプロセスが示されていること，地理的事象を理解するための様々な資料を用いて知識とその活用を求め，多面的に考察する出題形式であることから適切との評価を受けた。小問別では，問１は，地域間の結びつきを考察する良問であると評価された一方，出題方法にもう一工夫ほしいとの指摘を受けた。問２は，東京に関する３つの指標とグラフに示された指標の推移と組合せの問で，地理的思考力を問う良問と評価された。問３は，地方都市の変容に関して共通テストらしく問う良問で，こうした問の出題の増加が望まれると評価された。問４は，図を読み取りながら会話文の下線部の内容について考察するため時間は要するが，難易度は低いと評価された。問５は，各国の人口構成や政策を踏まえて多角的に考える必要があり，地理的思考力を問う良問と評価された。問６は，イギリスと３か国との地理的・歴史的関係や挙げられている年代，ポーランドのEU加盟年など多角的な観点から考えさせる良問と評価された。全体を通して人口や都市，日本に偏った問題構成となったため，農村に関する問題や世界を対象とした問題，また「エ　生活文化，民族・宗教」も含めた多様な分野からの作問を目指す必要がある。

第４問　中国とインドを一体的に扱った新しい形式であり，全ての小問に主題図，統計，グラフ，写真のいずれかが挙げられ，基礎的知識と資料を正しく読み取る思考力や判断力が求められる点で共通テストに相応しいという評価を得た。問１は，地形と植生・土地利用等との関係の読み取りで，難易度は高いと評価された。問２は，行政区別の穀物生産に関する階級区分図とグラフの読み取りに関する問い方が新しい一方，解答時間を要すると指摘された。問３は，工夫したグラフを用いつつ難易度が抑えられているという評価もあった。問４は，２か国の産業における発展過程と特徴が理解できていれば正解可能という評価であった。問５は，移民・貿易の両面の動きに関する知識が必要であるが，問４も参考になる良問という評価を得た。問６は，基本的な難易度であり良問であるが，図の読み取りについては難しいという評価もあった。多様な資料を提示しつつも適切な難易度・解答時間を目指し，今後の作問に努めたい。

第５問　地形図や各種資料を中心に，事前調査と現地調査で情報を入手して考察し，事後学習を行う展開は，実際の教育現場に近く工夫されていると評価された。一方，全体的に平易で，複数の小問で受験生への負担が大きかった点も指摘された。小問別では，問１は，読図の地理的技能を問う基本的な問題で，良問と評価された。問２は，自然地理・人文地理の両方にまたがって考察させる問題であり，良問と評価された。問３は，都市の発展や交通手段の変化について，資料の読み取りから考察させる問題と評価されたが，受験生への負担の大きさへの指摘もあった。問４は，水害対策についての思考力を問う点が評価された。問５は，素材の取り上げ方への工夫が評価された。問６は，小問を総括する形式について好意的に評価されたが，問い方にさらなる工夫も求められた。地域調査問題は，「地理Ａ」・「地理Ｂ」の両方の受験者が取り組む問題であるため，適切な文章量や難易度に配慮しながら，現地の資料を活用し，かつ，実際の教育現場を想定した問題を作成していきたい。

4　今後の問題作成に当たっての留意点

⑴　「地理Ｂ」の学習指導要領の目標と内容に沿っており，学習指導要領を踏まえた幅広い分野・領域から出題されており，知識・技能や思考力，判断力，表現力等を発揮して解くための多様な問題構成となっているとの評価を得た。また，場面設定型の大問や地域調査を中心に，社会との関わりや日常生活での課題解決を想定した問題が増えているという積極的な意見が付された。加えて，例年と比較して解答に要する大問間の時間のバランスが改善されたとの指摘もあった。その一方で，資料点数が増えたことで，解答の時間を要する出題も散見されるとの指摘もあった。これらについては，適切な資料を精選し，解答にかかる時間に十分に配慮しつつ，地理的な見方・考え方を働かせて解答に到達できるような問題作成を引き続き検討していきたい。

⑵　難易度については平均点が60.46点で，昨年度と比べて1.47点高く，「日本史Ｂ」「世界史Ｂ」とほぼ同水準の結果となった。評価書で指摘されたように，難易度としては適正であったと考える。一方で，例年のように，一部に学習量に比して正解にたどり着きにくい問題がみられ，高得点を取りにくい傾向は続いているとの指摘を受けた。「世界史Ｂ」や「日本史Ｂ」との難易度調整や得点の分布にも配慮しつつ，引き続き適正な難易度の問題作成を目指したい。

⑶　多様な資料を活用しつつも，図表類については概ね適切に使用されていると評価された。受験者にとって初見となる資料も多かったが，図表の読み取りを日頃より地道に進めた受験生には標準的であると評価された。一方で図表類を中心に資料数が多く精選を要する点や，写真類の使用に関する検討，全世界を対象とするような地図の増加，雨温図やハイサーグラフの積極的な利用などに関する要望も寄せられた。解答時間への留意も含めて，これらの課題については今後も継続して検討を重ねていく必要がある。

⑷　出題のバランスについては，一部に題材の偏りがみられたものの，全体として分野のバランスが保たれ，高等学校の学習事項を網羅的に扱っているという評価であった。また，多様な資料を用いて，知識の質や，知識に基づく思考力・判断力・表現力等を発揮して解答する問題が重視されているとされた。全体として，おおむねバランスよく出題されたと言えるが，出題には組合せ形式の問題が多いなど設問形式に関しても要望が寄せられた。バランスのとれた問題作成については，引き続き十分注意を払いたい。

⑸　全体として，高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題作成であり，問題作成の基本的な考え方および地理の問題作成方針に沿った設問が多いという評価であった。高等学校の教科書で学ぶレベルの知識を基本としつつ，社会生活や現代社会への興味関心，地域課題の解決につなげる力を問われる問題と評価された。次年度以降も，地理的な思考力・判断力・表現力等を多面的かつ多角的に問うことのできる内容に基づき，適切な難易度・分量に配慮しつつ，「地理総合」「地理探究」のモデルとなるような作問にも取り組んでいきたい。